

令和4年度

# 学校評価書

敦賀工業高等学校

令和4年度 敦賀工業高等学校

学校評価総合シート

項目	重点目標	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
共通項目 1 教育課程 学習指導 研修	日常の授業を充実するとともに、基礎学力の向上を目指す。	①年間学習指導計画を作成し、計画に従って授業を展開する。	年間学習指導計画に従い授業を進めることに教員は、「計画通りできた」38%、「おおむねできた」62%と合計で100%であった。今後は、さらに「計画どおりにできた」が増加となるよう、教材研究等の授業準備をすすめた。	現在の生徒の習熟度を把握し、より適した年間学習指導計画を再考する。また、校内授業研究や校外研修等を参考にし、授業力向上を図る。生徒に対し、分かりやすく丁寧な指示等を通じた授業になるよう工夫する。また、生徒の実態を把握した授業進度や理解度が高まる授業を展開する。
		②日課に15分間の「敦工タイム」を設け、基礎学力をつける。	73%の教員は、「生徒が自発的に『敦工タイム』に取り組む指導ができた」と答えているが、昨年89%から大幅に下がっている。「真剣に取り組めた」と答えた生徒は、91%と目標を大きく上回っているが、適切な取り組み姿勢でないクラスが一部あった。学習内容によっては理解が進まず、指導教員が個別対応して理解を促している。教科毎にまとめテストや学力向上を確認するため、学年末に確認テストを実施し、学力向上を検証している。検証結果や日頃の取り組む姿勢などから基礎学力の低い生徒へは、丁寧な個別の対応が必要である。	複数名の教員が指導に当たる体制を今後も継続させていくことと指導側の意識の変革が必要である。また、生徒の取り組み意欲や基礎学力の向上と定着を目指すため、敦工タイムの習熟度別や個別対応などの指導方法を見直す。
		③校内授業研究を進め、各授業において生徒の適性を判断し、主体的・対話的で深い学びの視点から授業力向上を図る。	教員の「わかる授業」への取り組みは、昨年に引き続き100%の教職員が「おおむねができた」と答えた。この結果は、ICT（タブレットなど）教育機器を利用した授業改善により、これまでと同様理解の難しかった内容をよりわかりやすく学習指導できたからと考えられる。生徒の「理解できた」と回答した値は、91%と昨年度より1ポイント改善が見られ、目標値を上回った。今後は「わかる授業」を実施するにあたり、生徒の適性の判断や、主体的・対話的で深い学びの視点から、さらに授業の構成内容を検討する必要がある。	「わかる授業」で「主体的に取り組む授業」を進めるため、生徒の理解度や適性（興味関心等）の判断を正しく行うことが必要である。校内研修では、研修体制を個ではなくチームで、継続的に授業改善に取り組む体制づくりを推進していく。具体的には、若手教員を中心に定期的な公開授業を行い、わかる授業に反映できることを明確し、持続可能な研修成果を全体で共有する予定である。
共通項目 2 生徒指導	基本的生活習慣の定着を図る。	①身だしなみや挨拶の指導を徹底する。	今年度「生徒心得」から「生徒の心構え」に変更し、ホームページで本校のルールが掲載された。頭髪服装項目は具体的な記載をやめたが、今までと同様の流れで支援することができた。奇抜な頭髪や染色が増加する予測もあったが、例年より現象傾向にできた。進路指導と連携し、就職試験の面接スタイルを指導目標としている点良かった。未だに最終検査までに改善できない生徒に対する支援の工夫を課題とする。	生徒指導として各教員の温度差を埋めていく方法や生徒支援の根底について新たな共通理解を持つ必要性がある。その中に教員目線だけでなく、生徒や保護者の視点、地域からの視点を考慮した生徒支援を進める為の工夫をする。「自主・自律」を生徒に求めつつ、指導者にも進化が求められる。
		②遅刻の上限目標を設定、遅刻防止の指導を徹底し、規律ある生活をさせる。	遅刻の総数は1月31日現在で440件となっている。学年別遅刻の件数は1学年172件・2学年138件・3学年130件と目標値を140件も上回る件数となっている。各科別ではM科61件、E科80件、C科194件、A科105件である。基本的な生活習慣指導を生徒指導の根本であることを再認識し、全教職員で対応する必要性を強く感じる。また、入室許可は1年生は209件、2年生263件、3年生233件と合計705件。昨年度より約100件増加している。トイレを理由にする生徒が多く、習慣化している生徒も見受けられる。違う視点から見れば授業に集中していない、できていない、50分間我慢できていないようにも思える。生理的現象については仕方がないが、授業中教室から退出する行為の重みや恥じらい、迷惑という点に共通理解を持ち、職員全体で連携し、指導していくべきだと考え、課題とする。	生徒支援活動の根本として学校生活習慣の乱れは大きな位置づけとなる。生徒指導は全教職員がそれぞれの立場で実施しているが、今後は毎朝の生徒玄関指導や各科、各学年会に協力依頼し、生徒の状況を把握できる工夫を施していきたい。 また、入室許可は緊急的措置が必要なほど数が急増している。入室許可の詳細を更に調査し、今後はその授業者と対応を協議するなど支援策を授業者と連携し実施する。
共通項目 3 進路支援	自分に適した進路決定を目指す。	①進路集会・進学説明会・職場見学等を行い、適切な情報提供をすることで、進路意識の高揚を図ると共に、自分にあった進路選択を考えさせる。	現在、進学希望者、就職希望者ともに、1名ずつの未定者がおり、早い時期からのキャリア教育の必要性を痛感した。 生徒と保護者の話し合いは79.0%とわずかに目標には届かなかった。昨年度もほぼ同じ結果となり、改善策を再考する必要がある。 今年度も、卒業生と語る会、進学説明会、進路集会など、学年毎の行事を実施し、生徒の進路に対する意識向上に繋がった。また、コロナ禍ではあるが、対面による進路行事や工場見学の機会が増えたことで、進路選択の幅が広がった。	生徒と保護者との話し合いの機会を増やすためにも、保護者会での十分な進路情報の提供や、進路アンケートの実施時期を工夫する。また、企業側から直接説明できる機会を設け、生徒と保護者が積極的に向き合える環境をつくる。 生徒が進路行事を通して自己理解を深め、自身の能力や適性に合う正しい進路選択ができるよう、さらなる支援の工夫に努める。
		②模擬面接・講演会・実力試験等を通し、基礎学力や社会人として巣立つためのコミュニケーション能力やマナーを向上させ、確実に進路決定させる。	「進路の受験に臨む心構え」ができた生徒は99.0%、保護者の「進路結果における満足度」については96.0%と、どちらも昨年度に比べ増加した。背景には、今年度は対面による進路行事が増えたことや、3年ぶりに校外模擬面接が実施されたことなどが挙げられる。 生徒は、インターンシップ、進路調べ学習、応募前職場見学などが進路決定に役立ち、コミュニケーション能力、マナー向上には、全職員が担当した面接指導が効果的であったと感じている。 学力面では、マナトレやSPI対策を行うことで、基礎学力向上に臨めた。	マナー講座などの行事や、全職員で取り組む面接指導を計画的に実施し、生徒にコミュニケーション能力や社会人としてのマナーを身につけさせる。 進学については、特に、大学を目指す生徒に対して定期的な進学模試の実施や、受験対策のための継続した補講を計画的に実施する必要がある。

項目	重点目標	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
独自項目 4 保健管理	心身の健康を保持増進するための実践力を育てる。	①規則正しい生活を心がけ、自ら進んで健康管理をさせる。	「健康管理ができ欠席せずに登校できた」の項目について、「十分できた」「おおむねできた」を合わせた数値は、生徒においては92%、保護者においては89%であり悪くはないが、数値が少し下がっている。教員においては100%となっており生徒への配慮した指導がなされていると思える。コロナの影響もあり、健康管理への関心がさらに高まった。	保健部の活動として、引き続き「健康についての啓蒙活動」を続け、「ほけんだより」の発行を継続して行う。保健委員の活動では、今年は、コロナ感染防止対策の活動を積極的に活動した。来年も、引き続き行う。また必要に応じて、健康、LINE、性や薬物などの話題を提供を継続し、生徒たちの心の健康についても留意していく。
	校舎内外の環境美化を推進する。	②清掃指導や監督を適切に行い、自主的に環境をきれいに保ち、その必要性を学ばせる。	清掃に関して、「十分できた」「おおむねできた」を合わせた数値は、生徒が98%と昨年と同様、しっかりやっていると認識でき喜ばしい限りである。保護者も96%と高く、教員においても、96%と高く、先生方の清掃時間の指導・監督に感謝する。今後もこの状態を維持していく。	今後も、日常の清掃活動が活発になるように保健委員による清掃点検を継続するなど、校内美化の意識の育成を図る。環境整備についてのアンケート等を活用し、各清掃場所に応じた掃除ができるように支援するとともに、外掃除や中清掃・大清掃についても、具体的な目標を立てるなどする。
独自項目 5 家庭・地域との連携	保護者と学校および保護者同士の連携を強め、充実したPTA活動の推進を図る。	①教育懇談会、交通安全等、保護者と教職員の共同事業を実施する。	保護者と教職員が共同して取り組むPTA活動について、保護者の参加意義を感じた率が83%となり、昨年度とほぼ同じ数値となり、目標を下回った。教職員は92%となり、目標を上回ることができた。コロナ禍の中でも、実施可能なPTA行事を行ってきたが、十分ではなかったと反省すべきところである。 PTA総会は3年ぶりに開催することができ、対面での総会が実現できた。	次年度は規制緩和が見込まれ、様々な行事が実施可能と思われるので、ICTを活用し、保護者に周知し参加を促していきたい。 今後の状況を見ながら、参加しやすい日時、時程などを柔軟に対応し、計画していきたい。
	魅力ある図書室づくりを目指す。	②毎月の新刊案内や書籍買い出しを通し、本への興味を持たせ、読書の習慣を身に付けさせる。	教職員の95%以上が生徒が魅力を感じる図書室であると評価している。生徒においても92%が目標を達成することができ、朝読書が習慣化が続いていることが分かる。 ICTを利用し、図書館だよりを生徒一人一人に配布することができるようになり、より多くの新刊図書の情報などを周知することができた。	図書室を利用する授業が多くなり、生徒が本に触れる機会が多くなってきている。しかし、そのことが貸し出し冊数に反映しておらず、声掛け等を行い、手に取った本を借りて読んでもらえるように努めていきたい。
独自項目 6 安全管理・施設設備	安全管理の理解と徹底を図る。	①避難訓練を通して、災害発生時の避難経路の確認や防災意識の向上を図る。	避難訓練を通して、災害発生時の避難経路の確認や防災意識の向上を図ることに、教員は「おおむねできた」以上の回答が100%と、目標を上回った。生徒も「おおむねできた」以上の回答が95%と、目標を上回った。本年度も、天候の影響で、1年生のみ体育館に避難し、2、3年生は学年単位で避難経路確認と防災動画を視聴した。	本校は、洪水、土砂崩れの災害の危険性を指摘されており、今後は地震、火災の訓練だけでなく、洪水、土砂崩れ等の避難計画も考える必要がある。
		②日常的に校舎内外の安全点検を行い、安全意識を高める。	今年度も全教職員と全校生徒による一斉安全点検を行った。このことにより、教職員・生徒ともに「安全への意識」が高まったと思われる。「十分にされている」「おおむねされている」の合わせた数値は、生徒は98%、教員は、96%と、良好な結果であった。この結果を今後も維持していきたい。	
独自項目 7 業務改善	業務改善の意識を持つ。	①役割分担の見直しや情報の共有化により、業務改善の意識を高める。	昨年度の85%を上回り、教職員の92%が業務改善の意識向上を果たした。月あたり80時間を超える長時間勤務の教職員は年間を通じて0名であった。 部活動、進路指導および学校祭など学校行事の特性から、特定の教員に業務が集中する時期があるのは避けられないが、業務を分担して行い、教職員の負担がなるべく軽減されるよう取り組む意識を高めていく必要がある。	引き続き各部署でスクールポリシーをもとに業務内容の精選を行うことで、業務改善に対する教職員一人ひとりの意識を高める。また、学校行事に関係する教職員の役割分担の見直しを行い、特定の教員に業務が集中しないような体制を構築する。
独自項目 8 工業技術教育	地域・環境・エネルギーを意識したものづくりへの取り組みを図る。また、資格取得に挑戦し、地域を支える技術者としての心と技の育成を図る。	①ものづくりに関する大会や難関資格取得に挑戦することで実践的な知識や技術を取得させる。	福井フューチャーマイスター制度の資格受験料一部補助により、経済的負担が軽減され、生徒が上位資格を積極的に受験した。今年度も資格取得や検定試験合格を目指し、朝や放課後補習、授業等において指導体制の再構築を図った結果、3年生の96%にあたる113名が福井フューチャーマイスターの称号を取得した（プラチナ3名、ゴールド32名、シルバー33名、ブロンズ45名）。生徒の自己評価から判断しても、意欲的に取り組めたことがうかがえる。 今年度も、コロナ禍で各種大会の実施に制限がある中、マイコンカーラリーにおいて全国大会に出場する等、本校生徒の活躍により様々な大会で顕著な成績を収めることができた。	経済的負担が軽減される福井フューチャーマイスター制度を活用し、上位資格への積極的な挑戦を次年度も推奨・指導していく。ただ、合格率が改善していない資格もある。補習での生徒の取り組みは良好であるが、家庭学習に結びついていない現状もあり、家庭での学習が必須であるということを継続的に指導していく。
		②学科ごとの課題研究発表会と代表による発表会を開催し、地域の職業教育への理解を深める。	課題研究を通して、生徒たちは問題解決能力や想像力が身についた。また、各科における発表会にも意欲的に取り組んでおり、プレゼンテーション能力や思考力、判断力も身についたと感じた。 プラザ萬象での本校課題研究発表会では、今年度も企業関係者や地域に対して成果発表はできなかったが、地域への継続的な職業教育の発信に努めた。 今年度の県工業学科課題研究発表会は、コロナウイルス感染症対策のため、制限があるものの2年ぶりに開催ができた。電子機械科が本校代表として課題研究発表を行った。	課題研究の目標である、専門的な知識・技能の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てられるように、生徒をサポートしていく。次年度も、3年生全員が研究成果を発表する機会を設け、生徒の満足度をさらに高められるよう指導していく。 コロナ禍で外部とのつながりが持ちにくい状況ではあるが、引き続き課題研究の取り組みを通して地域社会との連携を図り、職業教育の発信に努める。

令和4年度 敦賀工業高等学校 学校関係者評価書

(問)

- ・学校評価書の成果と課題が適切かどうかをご確認ください。
- ・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策は、適切かどうかのご意見をお聞かせください。
- ・その他、本校の教育活動についてのご意見をお聞かせください。

(意見欄)

○教育課程・学習指導・研修

タブレットを使った「わかる授業」の成果は素晴らしいと思います。  
作文形式の課題が続いた後の読解力が身についた。単純な読書感想文のような課題もいいと思います。  
生徒の授業理解度も把握しながら、理解不足の生徒が一人でも少なくなるようお願いします。  
コミュニケーション能力の向上に努めて頂けるとありがたいです。

○生徒指導

遅刻については保護者を含め明確な改善があるといい。  
スマートフォンの就寝時の使用等についてアンケートを実施してはどうか。  
身だしなみ等の指導について大きな問題はなかったと思いますが、保護者も巻き込んだ取り組みが必要と思います。

○進路指導

地元企業の説明会等感謝します。  
保護者と生徒が話し合うことが大切。保護者への動機付けをお願いします。  
手厚く指導して下さるのは敦賀工業高校のいいところです。  
面談指導では、企業の方の声が聞ける機会が増えるといいと思いました。  
就職については、総合力の高さを感じます。進学については力不足を感じます。

○保健管理

不登校の方への支援もやって頂いて感謝します。さまざまな生き方があると思いますので、本人の気持ちを大切にしながらの指導をお願いします。  
夜型の社会となり、生徒の睡眠不足が心配です。

○家庭・地域との連携

地域とのつながりはとても大切だと思います。  
生徒とともに協議や活動ができればよかった。  
図書にはいろいろなものがあるのでいいと思います。読書週間等があるといいと思います。  
今は恵まれすぎで、何でもある社会に感謝する気持ちを持たせたい。

○安全管理・施設設備

豪雨に対する避難訓練を具体的に進めてほしい。不審者の侵入も怖いです。  
生徒とともに行っているのがいいと思います。  
暑さ対策として、エアコン、扇風機等の設置への投資を進めてほしい。

○業務改善

よい改善されていると思います。PTAとも連携して、先生方の業務負担が減らせればいいと思います。  
先生方もしっかり休んで下さい。

○工業技術教育

課題研究のプレゼンは素晴らしいと思います。  
技術は年々進歩するので、実用性のある授業で即戦力の人材に育ててくくればと思います。  
保護者の立場で見ると、資格に関しては任意と言うこともあり思ったほど積極的でない。

○全体（総括）

コロナ渦から、昔の活発な学校生活に戻りことを期待します。  
生徒が敦工に入学してよかったと思えるよう、PTAと連携して進めて下さい。  
保護者同士の繋がりも広がらずに残念でした。  
先生方の対応はすばらしかったです。今後ともよろしくお願いします。

○学校関係者評価を踏まえた今後について

保護者を巻き込んで言いにくいことも遠慮せず言って頂けるといいと思います。いろんな場所で発信して下さい。  
PTAと連携した取り組みができるといいと思います。  
学校、PTA、家庭、地域が協力して進めて行きたい。  
女子生徒の増加や男女平等の社会進出を進めて下さい。